



NANOS

Patient

Brochure

Drusen

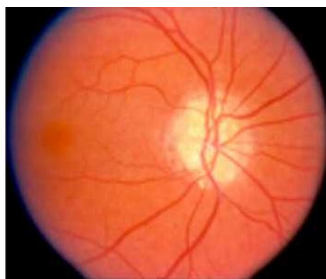
Copyright © 2015. North American Neuro-Ophthalmology Society. All rights reserved. These brochures are produced and made available "as is" without warranty and for informational and educational purposes only and do not constitute, and should not be used as a substitute for, medical advice, diagnosis, or treatment. Patients and other members of the general public should always seek the advice of a physician or other qualified healthcare professional regarding personal health or medical conditions.

視神経乳頭ドルーゼン

あなたは視神経乳頭ドルーゼンと診断されました。視神経乳頭ドルーゼンとは、視神経の前端である視神経乳頭にタンパク質様の物質が異常に沈着した状態です。原因は明確には解明されていませんが、視神経軸索流の異常に基づいていると考えられています。



正常視神経乳頭



視神経乳頭ドルーゼン
もこもことした小さい隆起



視神経乳頭ドルーゼン
拡大写真

視神経乳頭ドルーゼンの罹患率は人口の約1%で、西洋人にやや多い傾向があります。3/4の症例は両眼性です。遺伝性の場合も、非遺伝性の場合もあります。家族性（遺伝性）の場合は常染色体優性遺伝形式をとるので、両親や子供にも同じ所見が認められることになります。

視神経乳頭ドルーゼンは、通常出生時には認められません。幼少期に認められることも稀です。異常な物質が視神経乳頭に集積して石灰化するにつれて、徐々に認められるようになってきます。平均的には12歳頃になって初めて認められるようになります。視神経乳頭上の血管が多数に分岐（通常は2分岐）する所見を伴うことが多いとされています。



血管が多分岐している

Optic Disc Drusen

年齢とともに、視神経乳頭ドルーゼンは石灰化して認められやすくなってきます。全身疾患や他の眼疾患との関連は無いと考えられています。

症状

眼底検診等で偶然発見されることがほとんどで、通常患者さんに自覚症状はありません。見え方に問題があると感じることはありませんが、まれに数秒間かすみがかかるような症状や、視野が欠けるような症状を自覚することがあります。視神経乳頭ドルーゼンでは視神経乳頭が腫れているように見えるため、脳圧亢進によって起こるうっ血乳頭という所見と間違えられて、神経内科や脳神経外科や救急外来に紹介されてくることもあります。

診断

視神経乳頭ドルーゼンには、視神経乳頭内に埋没している場合と、視神経乳頭上に表在する場合があります。表在している場合は、ちょうど視神経乳頭の表面下にキラキラとした黄色いガラス玉のような小隆起が眼底検査で確認できます。埋没している場合は眼底検査で直接見る事が出来ませんが、超音波検査で確認することが出来ます。



超音波検査で大きなドルーゼンが描出されています

ドルーゼンが石灰化すると CT (コンピューター断層撮影) でも検出可能です。周辺視野検査を行って、視野欠損が無いかどうかを調べておくことも大切です。

予後

ほとんどの場合中心視力が障害されることはありません。しかし周辺部視野については約7割の患者さんでいずれ何らかの視野障害をきたすと報告されています。視野障害の程度は様々です。従って、定期的な視野検査を受けることが推奨されます。また視神経乳頭ドルーゼンの患者さんは、非動脈炎性前部虚血性視神経症や網膜静脈分枝閉塞症、網膜中心静脈閉塞症を発症するリスクが高いと考えられています。

治療

有効性が証明された治療法はありません。しかしながら、視野検査を定期的を受けて、視野障害が進行していないか確認することが大切です。まれに、視神経乳頭近くに脈絡膜新生血管という病的な血管が生えてくることがあります。脈絡膜新生血管は出血しやすく、大出血を起こすと重篤な視力障害をきたすことがあります。脈絡膜新生血管は的確な治療により出血に伴う合併症を予防できる可能性があるため、早期発見が重要です。

よく寄せられる質問

なぜ視神経乳頭ドルーゼンが起こるのですか？

視神経乳頭ドルーゼンは視神経の中のタンパク質様の物質が異常に集積することで起こると考えられていますが、その原因は不明です。遺伝性に起こる場合も、そうでない場合もあります。

どうやって診断するのですか？

眼底検査、もしくは超音波検査やCT検査で診断することが出来ます。

視神経乳頭ドルーゼンは悪化することがあるのですか？

年齢とともにドルーゼンの数や大きさは増加する傾向があります。

遺伝するのですか？

遺伝する場合もあるので、親・兄弟・子供に同じ所見が認められることがあります。視神経乳頭ドルーゼンと診断された場合は、ご家族もスクリーニング検査を受けられることを検討するべきだと考えます。ただし4才以下の子供には

Optic Disc Drusen

まだ所見は認められません。

現在私や家族が通院している他科の先生にもこの病気のことを知らせるべきでしょうか？

はい。視神経乳頭ドルーゼンと診断されていることを知らせておいた方が良いでしょう。特に、うっ血乳頭ではなく視神経乳頭ドルーゼンと診断されていることを伝えることが重要です。

悪くならないように何か出来ることはありますか？

有効性が証明された予防法はありません。

治療法はありますか？

現時点では、有効性が証明された治療法はありません。

治療法が無いのに、どうして定期的な眼科検査を受けなければならないのでしょうか？

稀ではありますが、視神経乳頭ドルーゼンには、脈絡膜新生血管という病的な血管が合併して、視神経乳頭のすぐ近くに生えてくることがあります。脈絡膜新生血管は出血しやすい傾向があり、重篤な視力低下をきたす恐れがありますから、新生血管が生じた場合は出血を予防するためレーザー治療が必要です。このような重篤な視力障害をおこしうる合併症をチェックするため、定期的な眼底検査を受ける必要があります。加えて、定期的に視野検査を受けて、視野欠損が進行していないか確認することも重要です。